



Contents ●年頭のごあいさつ ●12月例会開催

●委員会紹介 ●卒会者より愛を込めて ●my グッジョブ!! ●大山豆知識

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 山口尚文 ◆編集責任者/担当 副会長 西田裕志 ◆制作・編集 第45期広報委員会/委員長 渡邊公平

年頭のごあいさつ

鳥取県西部中小企業青年中央会
第45期 会長 山口 尚文

明けましておめでとうございます。

旧年中は、OB会員の皆様、各関係機関及び会員所属企業の皆様、そして会員ご家族の皆様には、当会の活動に格別なるご支援・ご協力を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

また現役会員の皆様には、第45期がスタートしてからの半年間、それぞれの立場で真剣に活動に取り組み、各事業を創りあげていただいたことに感謝申し上げます。

本年度は、スローガンを「考動」と掲げ、「考える」と「行動する勇氣」が合わさって初めて、物事を成し遂げられるという想いで活動しております。振り返りますと、7月は多くの方々にご臨席賜り開催いたしました当会45周年記念祝賀会を船出とし、8月は委員長・副委員長が企画しました「納涼例会」、9月は地域ビジョン委員会が担当の「空想地図を用いて新たな発想を学ぶ例会」、10月は政治経営委員会が担当の「事業計画の重要性・意義を学ぶ例会」、11月は継続準備委員会が担当の「家族例会」、12月は広報委員会担当の「原田メソッドを用いた指導方法を学ぶ例会」を開催いたしました。これまで開催されました各事業は、担当する委員会の委員長・副委員長を中心として各委員会が知恵を絞り、議論を交わし創り上げてまいりました。全ての事業が会員にとって「学ぶ」機会となったのは勿論のこと、事業を創り上げるという過程を経験すること自体が会員の「成長」に繋がっていると確信しております。



そして、当会は新年と同時に下半期の活動がスタートします。上半期で学んだこと、仲間と培ってきた絆により磨きをかけ、地域の発展、会員の成長、所属企業の発展に繋がる活動を今後も行ってまいります。そして5月には第5回となります「大山お地蔵さまフェスティバル」を開催する予定としております。担当委員会を中心として、継続事業として取り組んでいく意義、継続可能な形を模索しながら全会員で取り組んでおります。

本年の皆様のご健勝とご多幸をお祈りすると共に、今後とも当会へのより一層のご理解、ご協力を賜ります様お願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

12月例会開催 ～組織を結果に導く手法（原田メソッド）～

12月16日、米子市観光センター多目的ホールに於いて、2019年最後となる12月例会が開催された。冒頭の山口会長のご挨拶では「早いものでもう12月。委員長の皆様は委員会において、当初思い描いていた活動が出来ている事、出来ていない事がある

かと思う。出来ていない事については、それをどう軌道修正するのかを学ぶのが中央会だと考えている。是非、この年末年始の間に考えて頂き、新年より新たなスタートを切って頂きたい。また、委員会メンバーも委員会にどのような貢献ができていますのか、委員会にとって必要なメンバーになれているかどうかを今一度良く考え、新年を迎えて頂きたい」と述べられた。

続いて新入会員バッジ授与が行われ、河津会員より「皆様と一緒に中小企業の発展と地域発展の為に貢献していきたい」と抱負を述べられ、新たな仲間が加わった。



委員長タイムでは政治経営委員会の松田委員長より印刷業界におけるユニバーサルデザインについて発表があり、今まで何気なくみていた印刷物について、誰もが見やすいデザインにするにはどうすれば良いかなど、具体的な事例を通して説明された。



本例会では「組織を結果に導く手法（原田メソッド）」と題して、鳥取県立米子東高等学校の紙本庸由氏を講師としてお招きしてご講演頂いた。渡邊委員長の趣旨説明では、「我々会員は組織を動かし、目標を設定・達成して結果を出さないといけない立場であり、その為の情報伝達・目標設定の手法について学ぶ場としたい」と話された。

紙本氏の講演では「運命とは受け入れるべきものではなく、自ら創り出すものであり、また目標達成は技術によって誰にでも可能にできる」との考えから、ディスカッションも交えながら目標達成の為のツールについて実技を通じて学ばせて頂いた。



特に興味深かったのは、目標を達成できない人は「正しい方法を知らない」「我流である」「途中で諦める」の特徴があると話があった。会員全員が目標達成についてどのように考え行動していたのか、また今後どのように考え行動するべきなのか深く考えさせられる内容であった。

本例会の内容は直ぐに所属企業に持ち帰り実行できる内容であり、今年を締めくくる例会として非常に有意義な例会となった。我々中央会は今後も様々な分野の勉強を続け、自己研鑽を続けていきたい。

(記事：武田)

12月例会を終えて

広報委員会 渡邊公平委員長
(有渡辺商店 主任)



12月のお忙しい時期に広報委員会担当の例会にご参加頂きました会員の皆様ありがとうございます。本例会では米子東高校野球部監督の紙本庸由氏をお招きして「組織を結果に導く手法（原田メソッド）」と題してご講演頂きました。

目標を達成するために原田メソッドを使って紙本監督が野球部を指導するうえで実践してきたことを分かりやすく解説して頂きました。目標設定における思考の重要性・行動のルーティーン化の効力についてのお話など、今期のスローガン「考動」に相通ずる内容で会員の皆様には非常に為になる内容だったのではないのでしょうか。

今回の例会開催にあたり我々広報委員会は企業のリーダーとして会員個人の成長のため、所属企業の発展のため、また子育て中の会員が家庭に持って帰れる内容にし、人づくりに役立つ例会にしたいと思い委員会メンバー一同準備してまいりました。

そして例会終了後の忘年懇親会では会員の皆様に大いに盛り上げて頂き大変楽しい時間となりました。

最後になりますが、非常に素晴らしい講演をして頂きました講師の紙本庸由様、そして12月例会・忘年懇親会と共に事業を作り上げてきた委員会メンバーに心より感謝を申し上げます。ありがとうございます！

1月新年例会に向けて

総務委員会 住 真介委員長
(住法律事務所 代表弁護士)



今年度、総務委員会のテーマを「真心」としました。来賓、OBの皆様をお迎えし、新年を祝して懇親を深める1月新年例会も「真心」をもって、心を尽くしたおもてなしを行います。令和初めての新年例会を盛大に盛り上げるべく、この度は和をテーマとした2つの外部アトラクションを用意いたしました。一つは、水木流・水木典歌氏による日本舞踊、二つ目は日南神光社による日南神楽で、いずれも新年の祝い、始まりにふさわしい演目をご披露いただきます。また、新入会員も心一つにして当日の披露に向けてアトラクションの練習を懸命に取り組んでおりますのでご期待ください。1月新年例会は、現在の当会を来賓、OBの皆様にご覧いただく機会であり、かつ当会の歴史をつなぐ重要な事業です。そして会員の皆様の協力なくしては成り立たない事業ですのでご協力よろしくお願い致します。山口会長のもと下期のスタートを会員全員で取り組んで盛り上げましょう！

委員会紹介 地域ビジョン委員会

副委員長 柏木克仁 (㈱育成 専務取締役)

第45期地域ビジョン委員会です。山口会長のスローガン『考動』を基に、①鳥取県西部地域が抱える諸問題に着目し調査・研究を行う②他団体（青経連）事業の連絡・調整③会員拡大を委員会活動指針とし、小谷委員長が「価値観を重ねて、創造する」を委員会テーマに掲げました。そのテーマを共有し小谷委員長のもと活動する13名の会員メンバーが卒会者4名（安達監事、石原会員、権田会員、村田県出向監事）、勇者8名、新入会員1名（景山会員）で新たな価値観を模索しております。そして「ほうきの国」魅力共感プロジェクトチームを立

ち上げ、勇者の中から3名のチームリーダーを中心に、地域の魅力を知り、体験して共感しよう！！の思いで新しい物語（価値）を作り出すプロジェクト企画を開催しています。どうぞよろしくお願い致します。



大山豆知識 ~地蔵信仰と牛馬市~



出雲風土記に出てくる大山は文献における日本最古の神山です。大山山頂に現れたとされる地蔵菩薩が全ての生きものを救う仏様であることから、平安時代の大山寺の高僧基好上人が牛馬の安全祈願の守り札とともに大山中腹で牛馬の放牧を奨励しました。大山寺へ牛馬を連れた参拝者が増える中、牛馬の育成に適した



大山山麓で育った放牧牛は参拝者たちの目を引き、参拝者が引き連れてきた牛馬と牛くらべ、馬くらべが行われたそうです。これが発端となり次第に牛馬の交換や売買が盛んに行われ、やがて市に発展していきました。江戸時代には大山寺が積極的に牛馬市の経営に乗り出し、日本三大牛馬市と言われるまでに発展しました。このように「寺の庇護のもとに」という特徴が「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」とされる所以です。

2016年4月に認定された日本遺産とは“地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の伝統・文化を語るストーリー”を文化庁が認定する制度です。地域の歴史や文化が日本の大切なストーリーであると



認められた大山を中心とするこの地域には、多くの参拝者や牛馬の往来でにぎわった大山道に石畳や宿場の町並みが残り、大山おこわなどの食文化、水にまつわる行事など人々が日々「大山さんのおかげ」と感謝の念で大山を仰ぎ見る暮らしが息づいています。

(記事:福山)



卒会者より愛を込めて

権田和志(㈱味屋コーポレーション 部長)



新入会員時のあいさつで「時代の变化を感じ自分自身が変わる力を身につけ、周りに影響を与える人材となる」と声高に宣言してあっという間に8年の月日が経ちました。中央会活動を振り返ると諸先輩方より仕事や活動に対する考え方等たくさんの事を学びました。また、様々な役職を経験させて頂き、役職に応じた役割も勉強させて頂きました。

私が後輩に伝えた事は柳生家家訓「大才は袖が触れ合った縁をも活かす」、軍師黒田官兵衛が秀吉に進言した「世に人はたくさんいる。だが人材となると少ない。人材を大切に下さい」等、数多くの名言を残しましたが、その中でも特に伝えたい事が3つあります。①中央会は学びの場とよく言いますが、学んだ事をビジネスに活かさないといけません。論理的思考力、対人感受性、知的好奇心等のスキルをぜひ本業に活かして頂きたいです。②アイデンティティの継承も大事ですが、時代の变化にあわせて変えるもの、変えてはいけないものを議論する。③何らかの壁にぶつかった時、辛いことを避けてもまた同じ壁にぶつかる。今、目の前にある課題、悩みの壁は乗り越えられるから自分の目の前にくるという事です。あきらめずに自分の成長の為、壁に挑戦し続けて下さい。私も卒会したのち、OBとして見る違う景色を楽しみに去っていきます。今まで私に関わって頂いたすべての方に感謝申し上げます。

赤井宏之(あかい工業㈱ 取締役)



37期平成24年3月に入会させていただきました赤井です。入会当時は弟と二人の会社になってしまったのと、取引先工務店の協力会初代会長を引き受けた頃でした。大人数の前でもしゃべれるようになりたい、本気で会社組織にしていきたいと思い入会しました。

在籍中は、役という役はしておりませんが39期に40周年提言部長と、40期広報委員会副委員長を経験させて頂いたことは、今現在の社業の基となりました。又、各年度の所属委員会や例会で学んだ事を会社に当てはめてみて落とし込める内容を実行し形にしてみました。

何か事を起こす時には必ず「行つたれ！」のフレーズが浮かび行動に移してしまいます。きっかけがどうであれ小さくても行動に移すと何らかの形で方向性が見えてきます。自信があるわけでもない、ぼんやりとした状態でも言った事によって責任が生まれ自信に繋がり、行動に移せるようになりました。最初も最後まで人なんだと、中央会生活を通じて成長させていただいた事に感謝しています。ありがとうございました。

myグッジョブ!!

木嶋雄亮

(住友生命保険相互会社 新境港支部長)



1907年の創業以来、生命保険事業を通じて多くのお客様とご家族の人生を支えるという役割を果たしてまいりました。超高齢化が到来する中で、お客様の生命保険に対するニーズは、医療や介護の保障、老後の生活への備えなど多様化が進んでおります。そうしたニーズにお応えして、お客様とご家族に最適な保障を提供することで、世の中のお役に立ちたいと願っています。



重点取組事業として「スミセイライフデザイナー（営業職員）」「金融機関等代理店・保険ショップ」「資産運用」「海外事業」に取り組んでいます。全国に87支社、1,451支部、31,981名の営業職員が在籍しており、私は10名在籍の新境港支部長を担当しています。販売戦略の立案・遂行、地元経営者へのトップセールス、営業職員の採用・育成を職務としています。

今後大きな課題となる「健康増進」。日本の平均寿命は世界2位ですが、寝たきりなど介護を必要とする期間が長く、健康寿命の延伸が大きな課題となっております。健康増進活動の促進による健康状態の向上および健康長寿社会の実現に向けて健康増進型保険の普及に取り組んでまいります。

myグッジョブ!!

宇佐見啓輔

(エレックス株) 部長)



我が社は1950年に創立し、来年8月には70周年を迎えようとしています。

創立当初は国鉄(現在のJR)の資材納入業者として車両用品や電気部品を販売しておりました。

その後、電気設備機器の販売、交通信号機の保守・施工を開始し、現在に至ります。

「エレックス」というと、信号機付近で作業しているのを見かけられることから「信号機の会社ですか?」と聞かれることが多いのですが、前述のとおり我が社は信号機だけでなく、JRへの資材納入、照明器具・換気扇・エアコン・エコキュート等の住宅環境設備機器の設計施工・販売など、さまざまな業務を行っております。

私が所属するシステム部は、交通信号機の保守・施工部門で、鳥取県西部と中部の交通信号機の新設・移設工事・修理・保守点検を行っており、年間で約200交差点を工事しています。私自身は、施工管理が主な仕事のため現場に出る日数よりデスクワークが多いので、工事現場で見かけたら幸運かもしれないですね(笑)。

また、災害や事故など交通信号機に障害が発生した時は24時間365日、現場へ駆け付けます。

インフラ整備から一般のご家庭の身近な製品まで、日々の安心安全と、よりよい住環境を提供するのが私達の仕事です。



考読 ～おすすめ書籍の紹介～

三嶋 秀文(みかも秀文行政書士事務所 所長)

日本が少子高齢社会にあることは誰もが知る常識であるが、自分の住む地域の変貌ぶりを正確に理解している人は少ない。この「未来の地図帳」は、主観や希望的観測を徹底的に排除し、膨大なデータ分析から見えてくる未来の日本列島の姿から、今後の地域の取組みについての確かな提案が為されている。今後エリアマネジメントの重要性が益々高まってくるものと考えられるが、人口減少社会の実情を正しく読み解くことが、我々のビジネスチャンスへと繋がっていく。



〈新入会員〉

(政治経営委員会)



河津 孝彦

O型

㈱サンイン興産 専務取締役
ボウリング場(クイーンボウル)
〒683-0802 米子市東福原1-3-10
TEL 34-2821 FAX 34-1300

R01.12 (R01年度)入会
(推薦者) 堀尾(裕)
三嶋(秀)

〈コメント〉この度入会させていただいた河津孝彦です。中央会で様々なことを学び少しでも皆様のお力になれるよう、また自分自身も成長し会社、中央会、そして地域に貢献できるよう精進して参りますので、よろしくお願い致します。

1月役員会報告

令和2年1月6日(月)米子市公会堂 集会室5にて1月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- ・12月例会開催報告の件
- ・1月新年例会開催の件
- ・2月例会開催の件 ・その他

※なお、詳細については各委員長までご確認下さい。

訂正とお詫び

ハンサム367号の1面の11月例会を終えての委員会名に誤りがありません。

【誤】地域ビジョン委員会 ⇒ 【正】継続準備委員会

関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正いたします。

編集後記

新年会シーズン。忘年会で疲れた胃腸がまだまだ休めない状況が続いています。鍋シーズンで弊社では繁忙期です。寒さが身に沁みますが弱音を吐いておられません。体調管理に十分気をつけて仕事も飲み会も乗り切ろうと思っています。

(広報委員会 白井知弘)